



北出 明
(きたで・あきら)

元・国際観光振興機構（日本政府観光局）
ソウル事務所長
(現在はフリーランス・ライター)

慶應義塾大学文学部仏文科卒。
著書に『風雪の歌人』、『争いのなき国と国なれ』、
『韓国の観光カリスマ』、『釜山港物語』、及び
『命のピザ、遙かなる旅路』がある。



月精寺の中核をなす寂光殿。ここで早暁の礼仏が行われる

「韓国のテンプルステイ体験」

“テンプルステイ”とは日本の宿坊と考えればいいでしょう。2002年のサッカー・ワールドカップが開催された際、外国人旅行者に韓国の文化と仏教に触れてもらおうとの発想から生まれたもので、現在では韓国仏教文化事業団の運営の下、着実に普及してきています。

いま、韓国社会は急速な発展に伴い都市化が進み、人人は自然の中での休息と癒しを求めるようになっていますが、そのニーズに応えるのがテンプルステイです。

先月、私は3泊4日の視察ツアーに招かれ、貴重な体験の機会を得ましたので、その一端をご紹介します。

最初に訪れたのはソウルの東方、バスで2時間余りの距離に位置する月精寺（ウォルチョンサ）。五台山の豊かな自然に抱かれたこの名刹は、『三国遺事』（13世紀末に高麗の高僧によって書かれた史書）に「国中の名寺の中でも最良のため仏法が末永く繁栄する」と記されているほど。午前4時に起床、寂光殿で行われる“礼仏”は厳粛そのもの。

その後は法輪殿に移動して“108数珠作り”。108回立ち上がっては床に跪きながら108個のナツメの実に細い紐を通す作業はまさに集中力が試されます。精進料理の朝食の後は住職の案内でモミの木の林の中を散策。その頃には身も心もすっかり清められた気分になりました。

現在韓国には百力所余りの寺院がテンプルステイを実施していますが、詳しくは韓国仏教文化事業団のホームページ（www.templestay.com）にアクセスしてみてください。

そして、今度韓国に旅行する機会があれば、ぜひテンプルステイを経験されることをお勧めします。



法輪殿で行われた
108数珠作り



多くの碑が立ち並ぶモミの木の
林の中で住職の説話を聴く



精進料理。
食べ終わったら食器は各自で洗う